

(1) 国会等移転の必要性について

想定課題

国会等移転はなぜ必要なのか。

対応方向

国会等の移転に関する法律は、その前文で移転の意義を謳い東京圏に政治・経済・文化等の中枢機能が過度に集中したことの弊害を指摘し、国会等の移転を契機として地方分権等を進め、自主的に創造的な地域社会の実現を図っていくことが肝要である、としています。

この法律に基づき設置された国会等移転審議会は、その答申の中で移転の意義を次のようにまとめています。

1 国政全般の改革

国が進めている地方分権や行政改革、規制緩和等の改革を促進し、社会のしくみを変えていくことで、新たな価値観を創り出し豊かな国づくりをするため。

2 東京一極集中の是正

人・物・情報など東京にいろいろなものが集まりすぎることによる弊害をなくし、日本全体がバランス良く発展していくことで、ゆとりある暮らしをするため。

3 災害対応力の強化

地震等の大災害を受ける可能性の少ない場所に移転し、万が一の場合にも速やかな対応ができることで、安全で安心な国づくりをするため。

このように、国会等の移転は、21世紀における我が国の在り方を大きく変えるための重要な契機となる取り組みです。

また、地域の自立の促進、自律・自助を基本とする「生活者重視」の新しい社会を構築していくという点で、国会等の移転と地方分権・規制緩和とは方向を同じくするものでありますので、「車の両輪」として共に取り組んでいくことが、これらを実現するための現実的かつ有力な手段であると考えます。